



発寒ひかり

保育園だより

2026年

1月号

巻頭言

今年も、多くの保護者の皆さんに温かく見守っていただきながら、クリスマス親子お祝い会（生活発表会）が終わりました。大好きな家族に、普段から楽しんでいることを披露できるこの日を、子どもたちは心待ちにしていました。当日は、緊張しながらも、クラスのお友だちと生き生きと発表を楽しんでいる姿に、普段の園での様子を感じられたのではないでしようか。

当園では、行事は「みせるための行事」ではなく、日々の保育を大切にしながら、行事への取り組みは生活に潤いを与える、楽しむものにしようという考え方のもとで行っています。

先日「心が満たされる保育／主体性とは何か？学びとは何か？」という講演会に参加しました。その中で『“難しい”は“面白い”と同じ場所にある』と、お話をありました。

『“難しさ”や“悔しさ”があるからこそ“笑い”や“楽しさ”が生まれ、“やりたいけどできない”ことこそ“楽しい”のです。そんな“難しさ”込みの“楽しさ”や、“難しさ”あってこその“笑い”的経験は、やればできるという自分を信頼する力（自己肯定感）となり、その感覚は大人になつてもその子を支え続けます』という内容でした。

そこには自分だけでなく、保護者や保育士や友だちの存在も大きく関係していると私は思います。応援してくれる存在があつてこそ“難しい”ことを乗り越えられたり、より“楽しい”を感じられる“難しい”ではないでしょうか。そして、未来の子どもたちに必要な、人と上手にコミュニケーションする力、最後までやり抜こうとする力、気持ちをコントロールする力。これらはまさに日々の生活や遊びの中で育まれるのです。

これからも子どもたちのドキドキ・ワクワクと一緒に楽しみながら、大人になつてもその子の支えとなる「一緒に笑って楽しんだ記憶」を、ひとつでも多く残したいと思っています。

主任保育士 青山 伊津美